



多彩な知識と実践的能力を身に付け、生活を科学する。

被服製作や調理の知識・技術の修得をはじめ、家庭生活と社会の関わり、保育や社会制度など、家庭科の学びは多岐にわたります。

衣食住、家庭、環境、福祉など、未来に生かせる幅広い範囲の「生活」について総合的に学び、教科としての「家庭科」の教材研究・開発能力を持った教員を目指します。



被服実習Ⅰ（1年次後期）



手縫いで巾着袋を制作中



調理実習Ⅰ（1年次後期）

4年間の学び

家庭専修で学ぶ専門科目は、「家庭科教育」、「家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）」、「食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）」、「被服学（被服製作実習を含む。）」、「住居学」、および「保育学」の6つの領域から構成されており、1年次前期から一部の講義で履修が始まります。実習授業も多く、1年次後期には「調理実習Ⅰ」や「被服実習Ⅰ」があり、いずれも必修科目となっています。さらに、2年次以降で選択科目を履修することにより、専門性をさらに高めることも可能です。3年次になると研究室を選択し、指導教員のもとで卒業研究のための準備がスタートします。そして4年次には大学での学びの集大成として、卒業論文の作成に取り組みます。

取得できる免許

〔卒業要件に含める免許状〕

小学校教諭一種免許状
中学校教諭二種免許状（家庭）

〔取得を優先して薦める免許状〕

中学校教諭一種免許状（家庭）

〔所定の科目履修で取得可能とする免許状〕

高等学校教諭一種免許状（家庭）
◎幼稚園教諭二種免許状
◎特別支援学校教諭二種免許状

◎の免許状は、いずれか1つを選択し取得を目指すことが可能です。

先輩Voice

学校教員養成課程 義務教育専攻 家庭専修4年
私立愛知高等学校出身



食や生活への興味を引き出し、 子どもたちが自ら 実践できる力を育みたい。

本専修の魅力は、調理・被服実習など実際に手を動かす機会が多く、幅広い知識と技能が身に付くことです。私自身は、愛知の伝統野菜を使った調理方法や災害食、肢体不自由の子どもへの調理実習の方法など、より専門的な知識を深めることに力を入れています。自ら作成した指導案をもとに「模擬授業」に取り組む機会も多く、ICT機器もフル活用しています。将来は、子どもたちが食や生活について興味を持ち、自ら実践できる力を高められる教員になることが目標です。

■ 2023年 2年次前期の時間割（例）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1時限	初等算数科 教育内容A	家族論	初等家庭科 教育法B	初等理科 教育内容A	中国語Ⅰ
2時限	初等図画工作科 教育内容A		初等国語科 教育法A		生活経済論
3時限	教育システム論	英語コミュニケーションⅡ	この時間を使って「学校体験活動Ⅰ」の事前指導やガイダンスを行うことがあります。		食物学Ⅱ
4時限		スポーツⅡ		調理実習Ⅱ	
5時限					